

Interview mit TN28 (12.07.2017)

Q : 最初、ドイツ語を教え始めたのはいつ頃でしたでしょうか？

A : はじめは 2006 年だと思います。一番はじめは。

Q : それで、教えようと思う、教え始めたきっかけというのはなんですか？

A : 出産をしたあとで、ちょっと時間があつたんですね。で、もともと教えること自体には興味があつて、英語の教員免許も取っていましたし、まあちょっと落ち着いたら講師をやろうかなと思っていたというところに、昔の知り合いの先生からお話を頂いて、ドイツ語の、高校でドイツ語を開講することになって先生探しているからっていうことだったので、ほんとに素人の状態で始めたっていうような状態ですね。

Q : そうなんですね。で、最初教え始めて、最初の頃の経験や感じを思い出して頂くと、どうでしたか？例えばどういうことが自分には比較的簡単にできて、どういうことが難しかったというのは、最初の頃どうでしたか？

A : そうですね、子どもたちとわりとこうなっていうか、一緒に学んだりとか、あとまあ教科書に沿って、そうですね課題をやったりとか、その時の教科書はたしか **Szenen** だったと思うんですけど、やったりとか、ちょっとカードを使って子どもが実際、生徒が実際文法とかを自分でカード使って練習したりとか、インタビューとか、そういうのはわりと早くできたかなと思います。

Q : 難しかったことはありますか？

A : 難しかったというか、そうですねその時に根本的に欠けていた視点は、学習目標をちゃんとその徹底して、一年間で何ができてほしいのかとか、そのためにはどういう課題が必要で、どういうことをいつ学ばないといけないのかとか、そういう視点は最初は全然なかったですね。

Q : えっと教え始めた頃は、研究活動も並行して？

A : いや、その時は、あのまだしていなくて、教え始めてすぐに、自分にはいろいろ知識が足りないというのは感じていて、なのでゲーテ・インスティテュートの、その頃 **さんが語学部長だったと思うんですけど、そこがやってらっしゃる**先生とか**先生とか**先生と一緒にされていた **Stationlernen** のワークショップとかにまぜて頂いたりとか、してましたので、その時はほんとにただなんか教えるだけで、大学院もまだ行ってなかったと思います。

Q : 大学院に行かれたのはいつからでしたか？

A : 2008 年の 4 月からなんですけども、

Q : 専門はなんでしたか？

A : 専門は、専門というのは学部の時ですか？

Q : 両方、学部と大学院と。

A : 学部は**大のドイツ語学科だったんです。その時**先生のゼミに入っていたので、

異文化コミュニケーションとか、DaF とかはちょっとかじってはいたんですけども。あまりその時は大学院に行くとかいう思いはなかったの、そうですねあの、ドイツ語の先生にはなれそうもないから、英語の先生になろうって最初は思ってたぐらいなので。それからまあ、ちょっといろいろあって結婚して、出産もして、ドイツ語を教える機会を頂けたので、これじゃまずいなと思って、2007年の秋に**大の言語文化研究科を受験して、2月かなんかの受験だったと思うんですけど、っていう感じですね。

Q：言語文化研究科で主にどんなことを研究されてましたか？

A：最初に入ったときはですね、なんかその研究をやりたいというよりは、自分にない知識を補わなければならないっていう意識の方が強かったの、外国語習得とか、そういうことをドイツ語の自分の授業に生かせる形で学んで、理論とか知識とか、いろんな方法論とかを学んで、それを自分の授業に生かしていければいいな、ぐらいの感じだったんです。

Q：じゃあわりと仕事と、勉強、ドイツ語教師としての仕事と大学院での研究活動は似たところというか。

A：そうですね、はい。

Q：どれで、独文学会の教員養成・研修講座はいつ入られましたっけ？

A：えっとたぶん、2011年から2013年の回だったと思うんですけど。

Q：それはどういうきっかけで、どうして受講されようとおもったんですか？

A：たしか、**先生にお話を伺ったような気がします。ちょうどその2011年に教員養成講座を始めた時は**にいまして、仕事も全部やめて主人の出勤についていったものなので、なにもやってない状態だったんですけども、なので特にその時はまだ教えていない状態で、ただ教員養成講座どうしても興味があるから、やりたいっていうふうに**先生にご相談させて頂いたら、いいんじゃないって言ってくれて、それで入ったような感じなんです。

Q：受講されるにあたって期待されていたこととかありますか？

A：そうですね、あのえっと、まあ同じようにドイツ語の授業を、というか自分の授業をよくしたいと思っている仲間じゃないんですけど、人と知り合えたらいいなっていうのがまず一つと、大学院で学んだ理論の部分が、自分の授業にどこまで落とし込めるのかっていうのがわからない、自分の中ではかれないままちょっと**に行っちゃったもので、もうちょっとそれを客観的にはかる視点みたいなものが、自分の中できたらいいなと思って始めたような感じですね。

Q：で今挙げていただいた期待は、満たされましたか？

A：はい、それはいろいろな視点で教えて頂いたの、期待していた以上にいろいろと学ばせて頂いたかなとは思いますが。

Q：ほかの人と知り合うという点でも、

A：そうですね、はい。わたしその時までは大学で授業するっていうのは自分もやったこ

とがなかったの、今もないのですが、なので皆さんがどういう場でドイツ語の授業をされているのかっていうのも、漏れ聞きはするけれども、いまいちこうわからないし、いろんな**に対してみんながどんな反応なのかっていうのもわかっていなかったの、そういう意味では、こういう考え方もあるのねとか、いろいろ思ったので良かったかなと思います。

Q：今はどんなところで教えていらっしゃいますか？

A：今は**高校で、相変わらず高校なんですけれども、で教えてまして、でも中学生と高校生ももっているような感じなんです。それぞれ学年は別なんですけれど、で、私が担当しているのは基本的には帰国子女生のクラスなので、人数としてはすごく小さいとか少人数のクラスなんですけれども、その中にいろんなレベルの子がいたりとか、いろんな学習背景を持つ子がいるっていうような状態ですね。

Q：じゃあ、昔から今までずっと高校一本。

A：そうですね、一度**先生に大学のお話を頂いたことがあったんですけど、ちょっとゲーテとの仕事の兼ね合いでどうしてもそれをお受けすることができなかったの。

Q：ゲーテは、どういう仕事ですか？

A：ゲーテは**部に所属してますので、教員の時間割の作成ですとか、生徒さんの語学相談ですとか、あと授業を見て先生と話し合ったりとか、ゲーテでやる授業の全体をいっているような感じですね。

Q：その先生と話し合うっていうのは、先生のアドバイスのこととかですか？ どういう？

A：私はそんな上の立場ではないので、どっちかという、先生がこういうふうに授業をしたけれども、日本人の生徒さんはこういう反応をして、思ってたのと違ったんだよねというような話の時に、こういうのが原因なんじゃない、とか、そういう話をしながら、わたしとしてはこの先生はどのレベルを持ってもらうのが一番いいのかなとか、どのクラスがいいのかっていうのははかっているような状態で。

Q：そのゲーテの仕事っていうのは、いつからやっているんですか？

A：2014年ですね。

Q：教え始めて10年以上たれるということですけども、教え始めた最初の頃と比べて、教師として今の自分をどのように評価なさいますか？

A：それは、成長したかどうかとかそういうことですか？

Q：どういうところが成長した、とかどういうところがまだまだと感ずるとか、どうして行こうと思うとか、そういったことです。

A：教員養成講座とか、それ以外にも大学院で先生方にいろいろ教えて頂いたりとか、ゲーテの先生の **Fortbildung** とか、そういうのをいろいろ経験させていただいているので、先ほど申し上げましたように、最初の時は全然、いわゆる **Lernziel** とか、**Backward Design** とかいう考え方は全然なかったの、それをまあ、今はわりと意識して、授業

を組み立てられているかなっていうことと、あと自律学習ですね、を意識できるようになったかなというのは思います。で、自律学習もいろんなわたしの中では段階がありまして。えっと大学院で学んでいた時には自律学習の大事さというのはわかって、それでまあ自分の授業でもやってみようと思い入れてやってたんですけども、たぶん教員養成講座の**先生のコーナーだったと思うんですけど、その時に数学、協調学習の話がされていて、数学の授業で協調学習をやった後に、個人でもう一回、学生、生徒個人個人が理解できているかどうかをもう一回確認する作業が必要だ、みたいなことをおっしゃられていたことで、ああ、たしかにわたし、そんなこと考えてなかったわ、みたいなことに気づいて、で、協調学習をした結果、個々の学習者に学習内容が定着したかを確認する視点を得られたりとか、**先生の回だったと思うんですけど、学習日記をつけたりとか、生徒さん、学生が学生ストラテジーをどういうふう考えているのかっていうのを意識化させる必要があるとかっていう話があったと思うんですけど、それもそういう視点もちょっとなんかあったので、それは学べたかなとは思いますが。ただその、まだまだだなんて思うことはいっぱいあるんですけども一番いま格闘しているっていうのも変ですけども、たとえば **Lernziel** をたてて、**Backward Design** で階段を、なんていうんですかね、ゴールをスタート地点に近づけるように階段を一つ一つおろしていくっていう作業はできるんですけども、できるっていうかまあ、するようにはしているんですけども、その階段の高さっていうか、をどういうふう設定するかとか、課題のステップを細かくする事はできるけれど、どこを抜けば、抜いても大丈夫かっていう、そういう細かい微調整みたいなことを、なんかいま試行錯誤してやっている感じですかね。

Q : そういう、まだご自分で今一つだと考える部分に関して、具体的にえっとどうやってそれをよく、改善していくことができそうかっていう、なにか考えはありますか？

A : そうですね、これに関してはゲーテの方で勉強会を**さんと **DLL** を読んだりしながらやっているんで、ちょっと **DLL** で **PEP** をやったりすることを今後ちょっと続けて行くっていうのがまあ一つと、あとはそうですね、あとは思いついてないっていうか、授業で試すしかないっていうのもあって、というのもこう、毎年学年が変わるたびにレベルも違うし、くる子も違うし、人数の割合も違うし、なので基本的に教科書は使っていないし使えないんですよ。なので **Lernziel** をたてて、教材を探して、それを **didaktisieren** してということをやっているんですけど、それはもう経験を積むしかないかなと思っているんですけど。

Q : その自己改善というか、さらに自分の足りないところを伸ばしていく上でのヒントとか刺激になるようなものを講座から得られたりはしましたか？

A : えっとその、受けてた時ですかね？あ、はいそれは、今後そうですね、**Lernziele** のところはたしか**先生だったと思うんですけど、講座の時にいろいろ気づいたので、そこでやっとならスタートに立てたような感じなんです、イメージとしては。今はその講

座でやったことを振り返りながら、というよりは、基礎にしながら、ほかの DLL とかいろいろな DaF 教材とかを見たり、ゲーテの先生の授業を見たりとか、**さんだったりとか、専任の先生と話したりしながら伸ばしていくような感じですかね。

Q：最後に二つ質問があるんですけど、今までお話しいただいたこととかぶってることもあるかもしれないんですが、今後こういう授業ができるようになりたいというような、よい授業についてのイメージとか、将来こうしていきたいというものはありますか？

A：今の**で続けるとしたらっていうことでもいいですかね？ちょっと生徒のことを思い浮かべないとなかなか出てこないの。えっとそうですね、彼らがまあドイツに住んでたりしているので、それなりにドイツ語はできてっていうのは変ですけど、まあレベルはいろいろあるんですけど、帰ってくるのですけれど、どうしても日本にくと、ドイツにいたほどしゃべらないので、話さないしドイツ語に触れないので、維持するだけで精一杯なところもあって、まあ授業時間が少ないっていうのもあるんですけど、彼女たちがもうちょっと伸ばせていけるように、ドイツ語の授業をもっと伸ばせていけるように、できたらいいなっていうのはずっと思っていて。授業の感覚としては、しばらくやっていなかった、もしくはドイツからかえってきて間がたって忘れちゃったものを授業でやっているうちに思い出して、その上にちょっとずつ積み上げているような感じなんですけれども、もうちょっと、ああこんだけ伸びたよなって思えるような授業ができたらいいなと思ってるので。すみません、具体的に言えなくて申し訳ないです。

Q：もう一つはですね、理想の教師像とか、自分としては将来こういう教師になりたいというものはありますか？

A：いいか悪いかはちょっとわからないんですけど、お手本になるような先生がゲーテの中には何人かいらっしやるので、人間が違うのでまったく同じような授業はできないし、するつもりもないんですけど、そういう先生みたいな授業ができたらいいなっていうのはありまして、まあ一つは学習者に合わせていろんな種類の課題というか、引き出しが多いというんですかね、が多くて、きちんと合わせて、授業をカスタマイズできる先生になりたいなっていうのが一つありますし、あとはドイツ語をせっかくやっているんだから、授業は楽しいのはいいんだけど、楽しいのはいいし、楽しくないといけないとは思ってるんですけど、楽しいだけじゃなくて、きちんと、さっきも言いましたけど、A1 だった子がちゃんと A2 に上がって、A2 だった子がちゃんと B1 に上がれる、実力をつけられるような課題の組み立て方がもうちょっと…なので Lernziele の階段の話になるんですけど、きちんと積み立てられるように、授業を組み立てられたらいいなと思います。

同日、インタビュー終了後に寄せられたメール：

さきほど、最後に付け足す事は？と聞いていただいた際にぱっと出てこなかったのです

が、スタートだと申しましたが、養成講座をへて色々な視点や知識を得られたと同時に、養成講座を受けただけでは、もしくは大学院で学んだだけでは、全然ダメなんだなということにも気づけました。

良い授業をするためには、ベストと思うものを試してみて、振り返って、変えてみて、人と話したり色々な本やウェブで DaF のアイデアをもらったり、また失敗したらどこの視点が足りていないか考えて、また試して、そうしないと私は授業を良くしていけないという事が身にしみて分かりましたし、今も常にひしと感じているところです。

いつか、ゲーテの **Nachtreffen** のように修了生が集まってお互いに今どういう風に授業を工夫しているか、短くプレゼンし合えるような機会があると良いなと思います。